

校長先生の部屋だより

哲学ルームだより



この「哲学ルーム」は、生徒、先生の区別なく、共に学校スローガンである「人間を学ぶ」空間です。

今回は前回の最後に問題となった「人格」についてです。「相手に人格を認めるのはどういう場合か。」今日は3年生が2人といつもの1年生が来てくれました。

A: 第一印象ではなく、中身だと思います。

—中身とは？

A: 内側のことです。納得できるかどうかという。

B: それは人それぞれで、合う合わないがあると思います。ある人にとってはうるさいけど、それは積極的だということもあるし。

—一人それぞれでもいいけれど、中身や内側がどうだと相手の人格を認めるの？

B: 「よい」場合です。

—よいって？

A: 同化と排除の問題につながりそう。

—例えば殺人犯には人格を認めるの？

A: 殺人をするにも訳があつて、許されるものと許されないものがあると思います。

—許されない場合は人格が認められないと。

A: 見た目以外の第一印象で決まると思います。

—それはどういう印象なの？

A: 好印象です。

—だからさ。「よい」とか「好」ってどういうこと？ちょっと質問を変えるね。昔は奴隷には人格が認められなかったよね。君たちはどう考える？

B: 命令に従うことしかできないなら人格は認められません。

—ということは、命令に従わないということがある場合に人格を認めるってこと？

A: いっしょにやっつけていけそう、という場合に人格を認めるのだと思います。

—なるほど。これは面白くなってきた。ではどういう場合にいっしょにやっつけていけそうだと思うだろうか？

A: ぶつかってもいいけど、夫婦みたいに認め合える場合です。

—何を認め合えるの？

A：人格です。

—それじゃあ、話が元に戻ってしまうよ。

A：善さも悪さも含めて、認め合うということです。

ここで1年生が登場。今までの経緯をもう一度振り返る。

—いっしょにやっていけそうだとっても犬やネコに人格は認めないよね。どうして？

A：しゃべれないから。コミュニケーションが取れないからです。

—犬やネコとコミュニケーション取れていないの？それに人間同士、本当にコミュニケーション取れているの？はい、時間です。1年生の君、何か考えてきた？

(嬉しそうに考えているんだけど、言葉にならないみたい。)

じゃあ、今日はここまで。

生徒諸君、何か感じ取っているのだけれど、まだまだ言葉にならないようです。

